

# 子ども会育成会 だより

飯山市子ども会育成連絡協議会  
編集・発行 飯山市子ども会育成連絡協議会事務局  
事務局 市教委市民学習支援課社会教育係  
TEL 62-3342 (飯山市公民館)

## ～コロナ禍だから～でも～

いまだからできること

## 「コロナ禍だから考えたい！」

新型コロナウイルスの感染終息が見えない中、一年が過ぎました。各地区活動がほとんどできなかつたと思います。新年度に向けてどんな活動ができるか「大人」も「子ども」も考える時です。従来の活動を踏襲するだけでなく、ガラッと変えてみるのもいかがでしょうか。もちろん「答え」などどこにもありません。現代社会において「必要なこと」「伝えておきたいこと」「子どもに言いたいこと」「大人に言いたいこと」などなど沢山あると思いますが、それを整理する中で何か見えてくるものもあるのではないのでしょうか。～～～～～～考え中→考え中→わかった！！



## いままでを振り返る！！

### ◎其の1 「いいやま共育フェスティバル」って な～に～◎

座型・講演型で行われていた『飯山青少年健全育成住民大会』を、大人と子どもと一緒に汗を流し、よりよい地域環境づくりを目指すため、平成18年度から体験型の住民大会として始められました。平成21年度までの4年間は『わがまち みんなで クリーン作戦』を合言葉に活動、平成22年度からはテーマを『わがまち だいすき みんなで ボランティア』に変更、徐々に活動の幅が広がりました。平成27年度からは、『我がふるさと みんななかよく 助け合い』のテーマのもと、人と人とのつながりや絆に重点をおき活動しています。

### ◎其の2 「いいやま共育フェスティバル」の基準日って な～に～◎

7月は、『青少年健全育成強調月間』であり、これまでの住民大会が、強調月間にあわせて実施してきたこと。そして、7月の第2又は第3土曜日は、小・中・高校生が比較的参加しやすい日であることから基準日を設けています。あくまでも基準日ですので、地域の実情に合わせて実施しています。



### 毎月11日は「信州あいさつ運動の日」です

当たり前にあいさつをしたり、お互いに助け合って、子どもたちの育ちをみんなで応援できる地域社会を目指し、信州あいさつ運動の輪を広げていきましょう。

# 各地区の活動から

## 「令和2年をふりかえって」

木島青少年育成会長 井上 稔

令和2年は、例年になく記憶に残る年になってしまいました。木島地区では1月に、木島少年クロスカントリースキー大会を行います。しかし令和1・2年と温暖化のためか積雪がなく満足に滑り込みが出来ずに大会は中止になりました。特に令和2年の大会が最後の子どもたちは、残念な思いをしたことでしょう。

更には新型コロナウイルス感染症「COVID-19」の感染拡大です。下木島地区では雪解けを待ち、4月に「クリーンアップ下木島」と題して、子どもたちと一緒に下木島地区内の樽川堤防・バイパス道路・市道でゴミ拾い・ゴミの選別作業を行い「ゴミを捨てない・資源物のリサイクルをする」を考えて作業しています。しかし昨年は感染防止の為、大人だけでの実施となりました。雪不足、コロナの影響でしょうか例年よりも集めたゴミの量が半分以下でした。

各種学習会、大会が自粛、中止になってしまいました子どもたちはがっかりしていると思います。

昨年11月に小学校にて「あいさつ・声かけ運動」をしたとき、あいにく雨降りでしたが子どもたちのあかるく元気な「おはようございます」の声に木島の子どもたちは、素直で良い子がたくさんいるなど、元気をもらいました。

そんな子どもたちが、普通に勉強したり遊んだり出来るよう願います。



## 「コロナ禍で思うこと」

太田地区子ども会育成連絡協議会長 木原 孝

令和2年は日本中、いや世界にとって試練の一年だったのではないのでしょうか。まさかこんな世界になっていようとは、一年前に想像できていた人は皆無でしょう。

コロナウイルスが世界中に蔓延し、私たちの生活は一変してしまいました。今まで当たり前だと思っていたことができなくなっていく閉塞感や、ある種の恐怖感。その影響は地域の子どもの日常にも及んでしまいました。

今年度予定されていた太田地区全体の行事は軒並み中止となり、子どもたちの元気な声も響き渡らなくなりました。子どもたちの成長に欠かせない仲間とのスキンシップや大声で楽しく「はしゃぐ」といったことも禁止され、息苦しさを感ぜながら過ごしているのを見るにつけ、今までの何気ない日常がいかに有難かったのかと、今さらながら感じているところです。

私たち大人は、地域の宝である子どもたちが伸び伸びと元気に走り回れる日が来るまで、彼らに寄り添い、少しでも心が軽くなれるようにサポートしてあげなければと、切に思うのです。

今年こそは楽しい活動ができますように。

一日も早い終息を願ってやみません。



## 「飯山の魅力発見」

飯山地区子ども会育成連絡協議会長 根食 猛

飯山地区では湖や千曲川でのカヌー体験と、飯山地区を北から南まで歩く「まちなかウォーキング」、えびす講と同時開催の「ふれあいまつり」でのチャリティー餅つき、年4回の育成会だよりの発行などを実施しています。本年度は新型コロナウイルスの影響により事業の中止や縮小といった形を取らざるを得ない状況でしたが、飯山市内の感染が確認されていなかった事とアウトドアで実施するという事で、昨年8月に北竜湖で字町会長さんを対象に30名ほどでカヌー研修会を実施しました。カヌー初体験という方も多くカヌーも北竜湖も満喫した一日を過ごしていただきました。



また10月に小学生を対象に「まちなかウォーキング」を実施しました。多い年ですと総勢100名ほどになりますが、今年は70名ほどのご参加を頂きました。参加賞としてお菓子やジュースやおにぎりとしり市内菓子店のバナナボートを持って帰ってもらいますが、お店ごとにそれぞれ違うので子どもたちは楽しそうに迷いながら選んでいます。「地域の子どもは地域のみんで育てましょう」という考えのもと、われわれにできることは多くはありませんが、子どもたちの健やかな成長のため皆様と一緒に、育成会事業に取り組んで参りたいと思います。



## 「富倉峠ウォーキング」

柳原地区子ども会育成会長 近藤 祐輝

柳原地区の公民館・区長会・育成会で主催する毎年恒例の「富倉峠ウォーキング」が、去る7月19日(日)に行われました。昨今のコロナ禍で開催も危ぶまれましたが、今回は参加者を飯山市内在住者に限定し、参加者同士が過密にならないように配慮を行うことで無事開催することが出来ました。地元小学生、保護者や学校の先生など約50名の参加をいただきました。いざ始まれば天候にも恵まれ上新田公会堂から出発し、道中に点在する石碑や遺構について講師の方々から講義を受けながら登って行きました。舗装道路も早々になくなると険しい峠道となり、途中急な下り坂では補助ロープを設置して、それをつたいながら降りたりしたのですが、約1時間半かけて富倉峠に到着すると、普段我々が生活している地元集落や長峰の向こうを流れる千曲川を見渡す素晴らしい景色が待っていました。柳原公民館長のおっしゃっていた「歩いて 残そう 塩の道」「語って つなごう 富倉峠」を実感することができたと思います。飯山の歴史においても欠かすことのできない塩の道です。先人たちが切り開き、生きる為に命がけで物資を運んだこの道の存在と歴史を子どもたちに少しずつでも伝えていく良い機会となりました。(裏面に続く)



## 「夏の思い出づくりは「広井川まつり」で」

外様地区子ども会育成会長 服部 涼

昨年は新型コロナウイルスの影響で、外様地区子ども会育成会の活動は何もできず、大変残念な年となってしまいました。今年度の活動の様子を紹介する話題が何もないので、例年、外様地区子ども会育成会の主催行事として行っている「広井川まつり」について紹介したいと思います。

「広井川まつり」は毎年8月第2土曜日に行っていて、外様地区を南北に流れる広井川の尾崎城址付近を会場にして、イワナの放流・つかみ取り及び「イワナの塩焼きバーベキュー」が主な内容です。河川をハシゴと網でせき止めて生け簀（いけす）として、そこにイワナを放流します。この行事は、平成4年に当時の漁業組合外様地区理事さんが、子どもが川に親しむ催しをやりたいということで、最初は尾崎地区子ども会の行事として始まりました。その数年後、外様地区子ども会育成会の行事となり「広井川まつり」という名前が付けられました。以来、子どもたちにとって貴重な川遊びができる、夏の思い出がくれる行事として定着し、現在に至っています。今年度で28回目を迎える予定でしたが、コロナ禍ということで開催中止を余儀なくされました。来年度は、開催できることを祈念致します。

↓ 「2010年8月14日の様子です。」



毎月第三日曜日は 家族ふれあう「家庭の日」です

**栄養は あなたの笑顔と ごはんから**

(コンテスト応募作品より)

新しい年を迎え、さわやかな挨拶を交わしましょう。

飯山市青少年育成市民会議